

令和3年度

大学院自然科学研究科進学意向アンケート

集計結果

(博士前期課程1年次対象)

令和3年11月

新潟大学大学院自然科学研究科附属教育研究高度化センター

教育プログラム企画・検証改善部門

目 次

I	アンケート調査の概要	1
II	アンケートの集計結果	2
III	アンケート調査票	14

Ⅰ アンケート調査の概要

1 調査目的

博士前期課程 1 年次学生の進路にかかわる意向調査で大学生活において、充実した進路・キャリア形成の機会をつくることを目的として実施

2 実施期間

令和 3 年 4 月 21 日（水）～ 4 月 26 日（月）

3 実施方法

調査対象：令和 3 年度博士前期課程 1 年次生（令和 2 年 10 月入学者含む）

調査方法：学務情報システムアンケート機能を利用

4 回答状況

学生数： 532 名 回答数： 227 名 回収率：42.7%

II アンケートの集計結果

修士1年学生アンケート回答

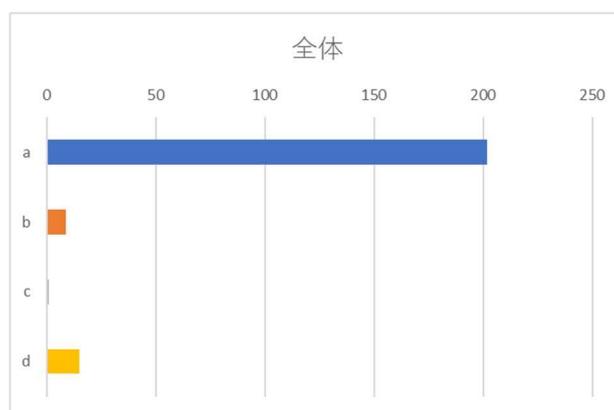
現時点で予定している進路

【所属別】

		数理物質	材料生産	電気情報	生命食料	環境科学	全体
a	就職したい	26	51	63	25	37	202
b	進学したい	1	2	3	0	3	9
c	進学したい（他大学）	0	0	0	0	1	1
d	未定	1	3	3	2	6	15

【出身学部別】

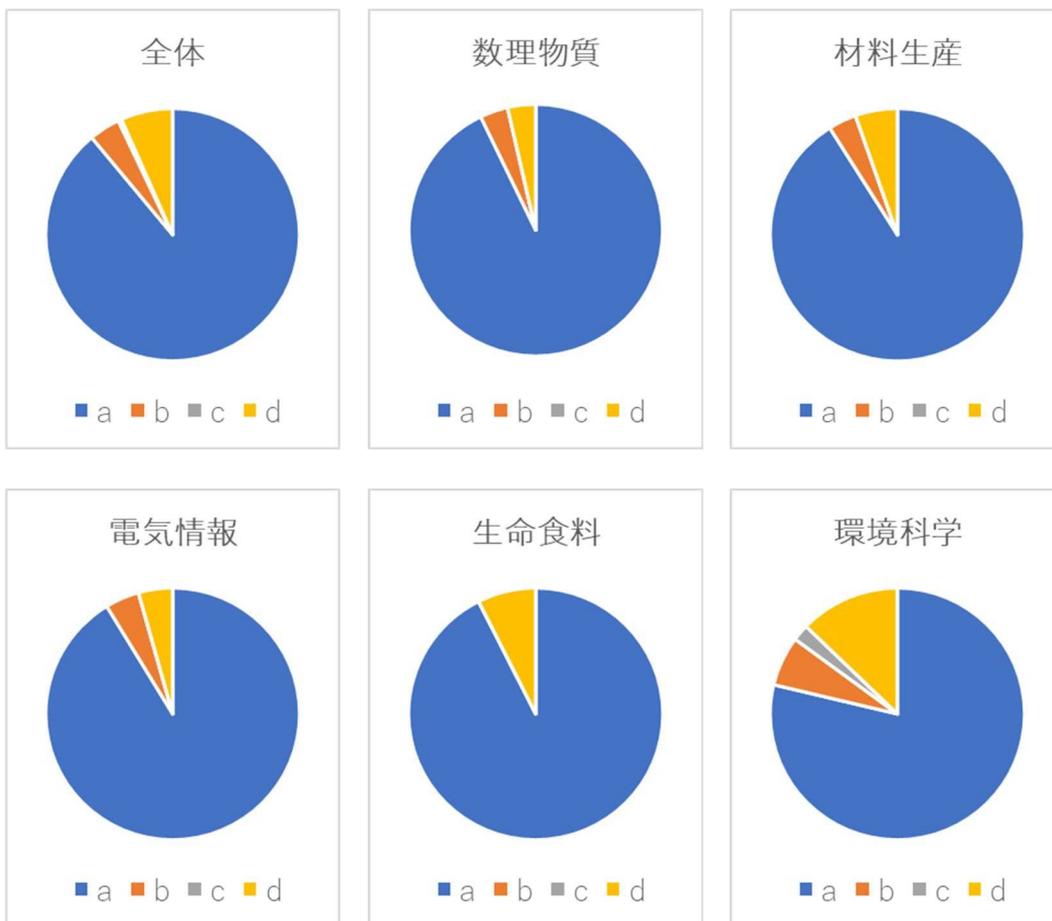
		理学部	工学部	農学部	全体
a	就職したい	45	132	25	202
b	進学したい	3	5	1	9
c	進学したい（他大学）	1	0	0	1
d	未定	3	11	1	15



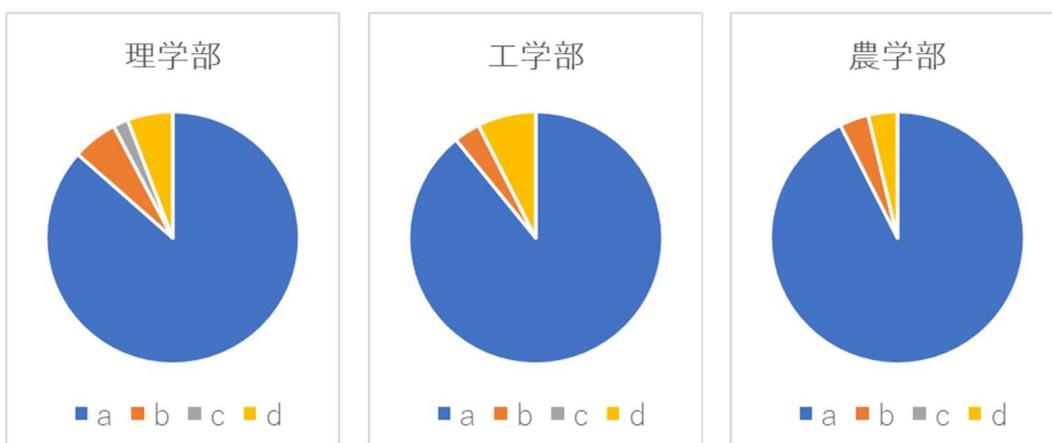
- 大多数（89％）が就職を希望（進学希望は5％程度）。
- 環境科学専攻で若干未定比率が高いが、専攻や出身学部で顕著な差異はない。

【対応：教員アンケート P.14】

【所属別】



【出身学部別】



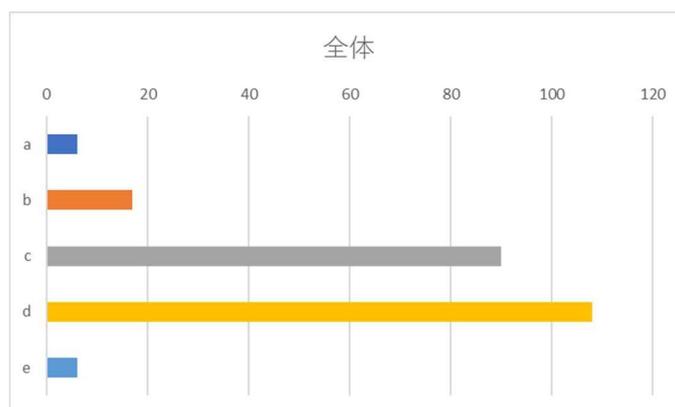
意思決定の度合い

【所属別】

		数理物質	材料生産	電気情報	生命食料	環境科学	全体
a	とても迷っている	1	1	1	2	1	6
b	迷っている	1	2	3	5	6	17
c	あまり迷っていない	14	14	33	10	19	90
d	全く迷っていない	11	37	31	9	20	108
e	考えたことがない	1	2	1	1	1	6

【出身学部別】

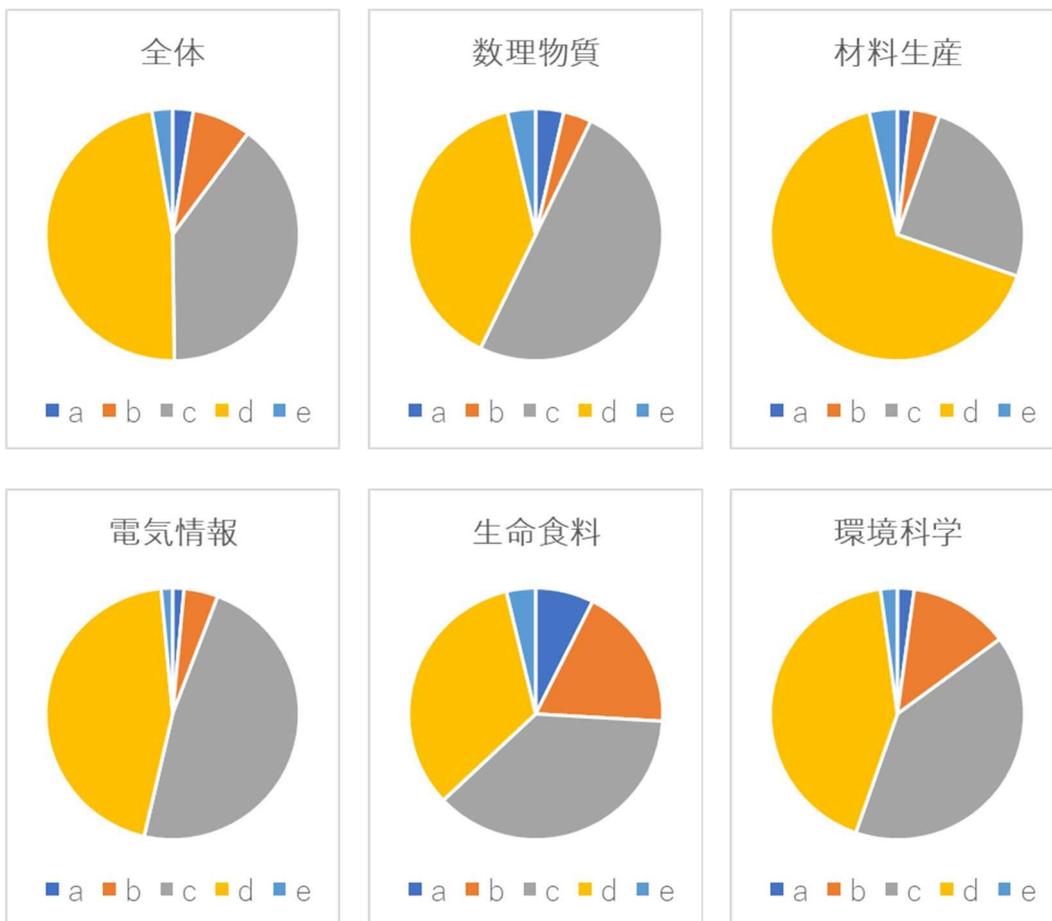
		理学部	工学部	農学部	全体
a	とても迷っている	2	2	2	6
b	迷っている	8	6	3	17
c	あまり迷っていない	26	57	7	90
d	全く迷っていない	15	79	14	108
e	考えたことがない	1	4	1	6



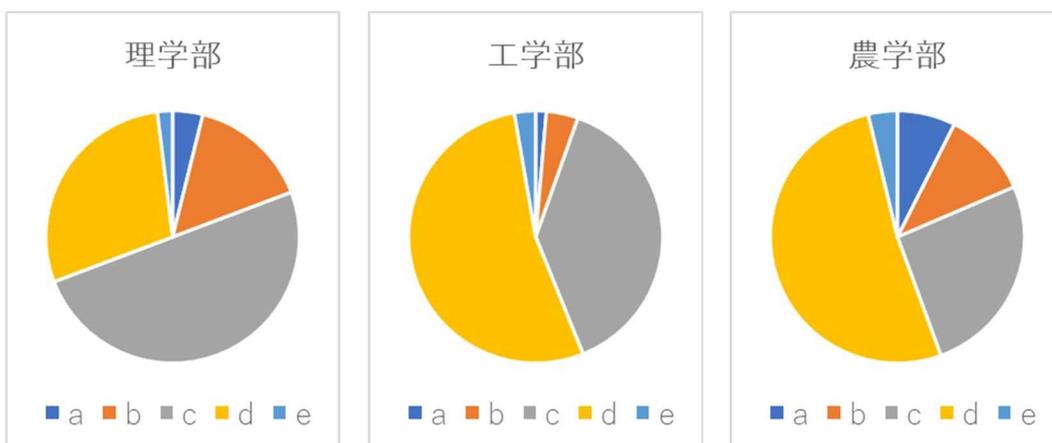
- あまり迷っていない・全く迷っていないで87%を占める。
- 全く迷っていない比率が高いのは、専攻別では材料生産システム，出身学部では工学部・農学部。
- やや迷っている比率が高いのは、専攻別では生命・食料科学，環境科学。出身学部では理学部・農学部。

【対応：教員アンケート P.15】

【所属別】



【出身学部別】



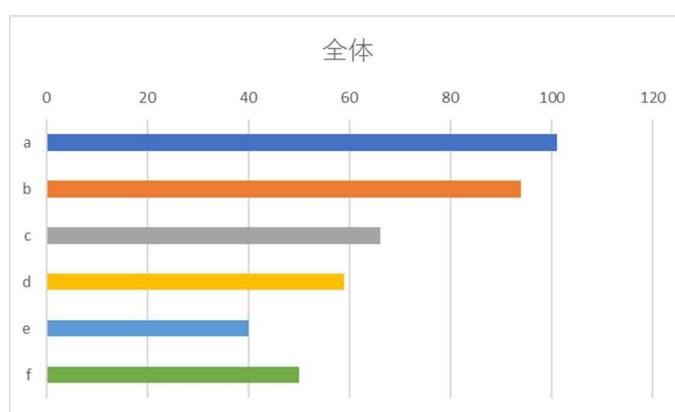
迷っている理由

【所属別】

		数理物質	材料生産	電気情報	生命食料	環境科学	全体
a	博士課程に求められているレベルを備えているか、向いているのか不安だから	15	19	37	12	18	101
b	進学することでさらにお金がかかるから	11	26	28	8	21	94
c	博士課程終了後、就職できるかどうか不安だから	8	13	18	10	17	66
d	博士進学しても就職で有利になるイメージがないから	6	16	17	9	11	59
e	博士進学についての情報が少なく、進学後の生活がイメージできないから	3	10	16	2	9	40
f	その他	9	16	11	9	5	50

【出身学部別】

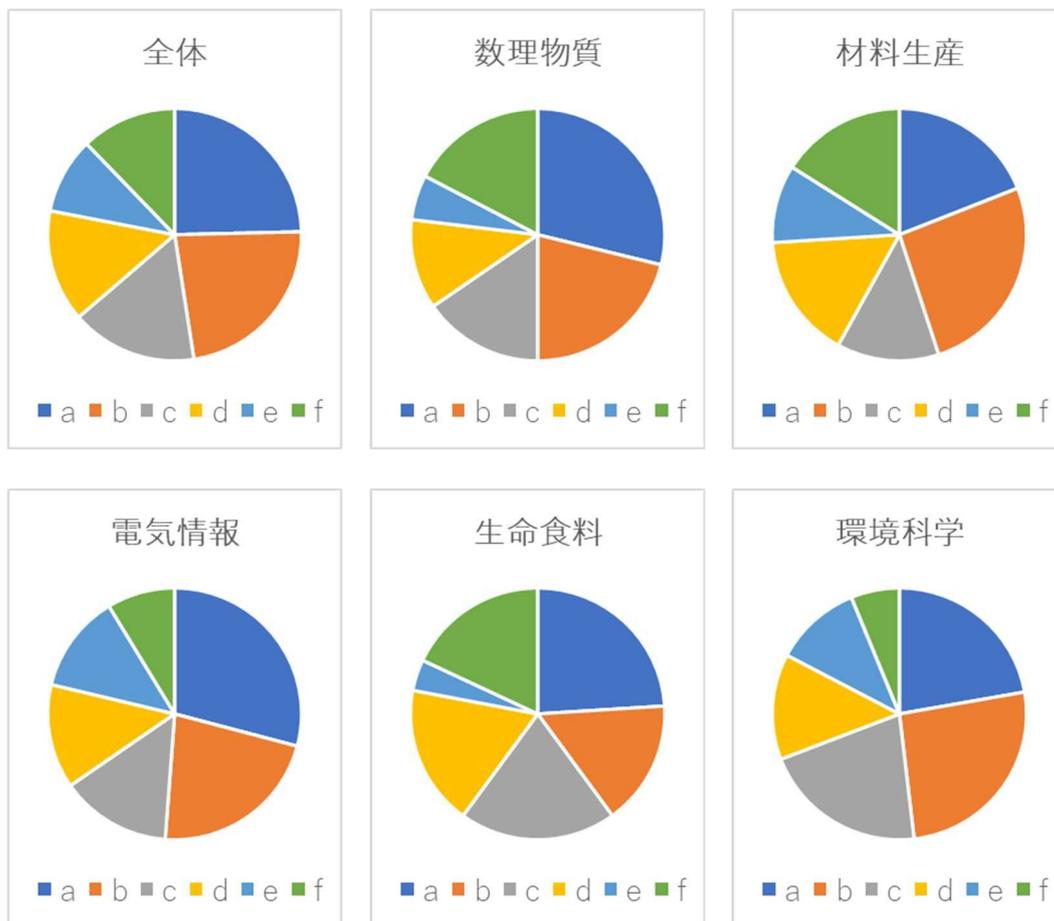
		理学部	工学部	農学部	全体
a	博士課程に求められているレベルを備えているか、向いているのか不安だから	26	66	9	101
b	進学することでさらにお金がかかるから	22	65	7	94
c	博士課程終了後、就職できるかどうか不安だから	20	39	7	66
d	博士進学しても就職で有利になるイメージがないから	14	38	7	59
e	博士進学についての情報が少なく、進学後の生活がイメージできないから	8	30	2	40
f	その他	10	30	10	50



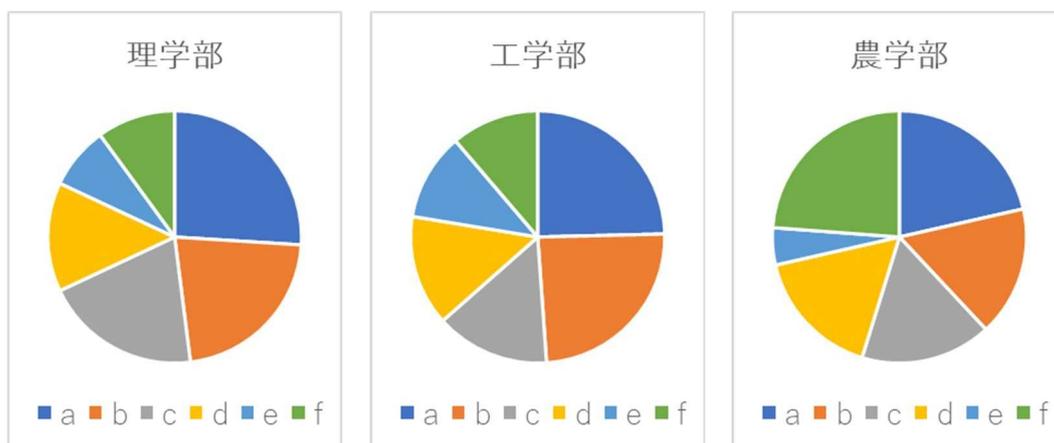
- 「自信」、「お金」、「就職」が迷っている理由として挙げられる。
- 専攻別、出身学部別で見てもこれらが主要な理由となっている。

【対応：教員アンケート P.16,17】

【所属別】



【出身学部別】



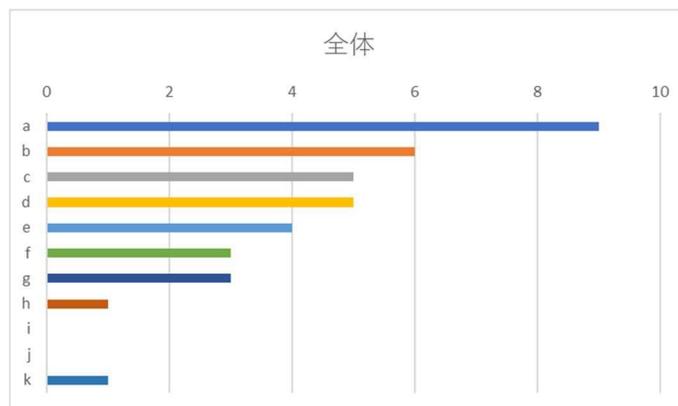
博士進学に影響する観点

【所属別】

		数理物質	材料生産	電気情報	生命食料	環境科学	全体
a	博士課程でも研究を続けることで、より成長できると思うから	1	1	3	1	3	9
b	接した教員が魅力的だったから		1	1		4	6
c	学部での研究テーマが魅力的で、博士課程でもその研究を継続したいから		1	1	1	2	5
d	将来は、アカデミアでの活躍を希望しているから	1	1	1		2	5
e	博士課程でも、共同研究をより経験したいから			2		2	4
f	接した先輩が魅力的だったから	1	1			1	3
g	就職活動に有利だと思うから	1		0		2	3
h	学部での研究活動が充実していたから					1	1
i	周囲がそうするので						0
j	正直、深く考えていない						0
k	その他		1	0	0		1

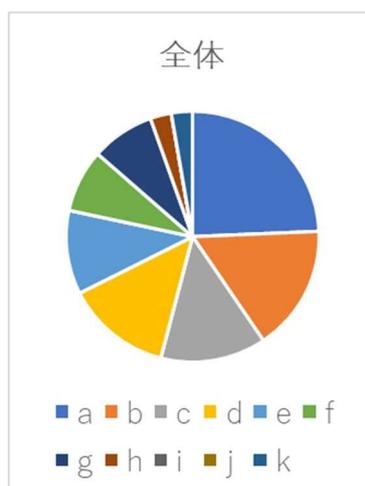
【出身学部別】

		理学部	工学部	農学部	全体
a	博士課程でも研究を続けることで、より成長できると思うから	2	5	2	9
b	接した教員が魅力的だったから	2	4		6
c	学部での研究テーマが魅力的で、博士課程でもその研究を継続したいから		2	3	5
d	将来は、アカデミアでの活躍を希望しているから	2	2	1	5
e	博士課程でも、共同研究をより経験したいから		3	1	4
f	接した先輩が魅力的だったから	1	2		3
g	就職活動に有利だと思うから		2	1	3
h	学部での研究活動が充実していたから	1			1
i	周囲がそうするので				0
j	正直、深く考えていない				0
k	その他		1		1



- 回答数が少ないため、明確な傾向は出しにくいですが、「進学によってより成長できている」がトップ。

【対応：教員アンケート P.18,19】



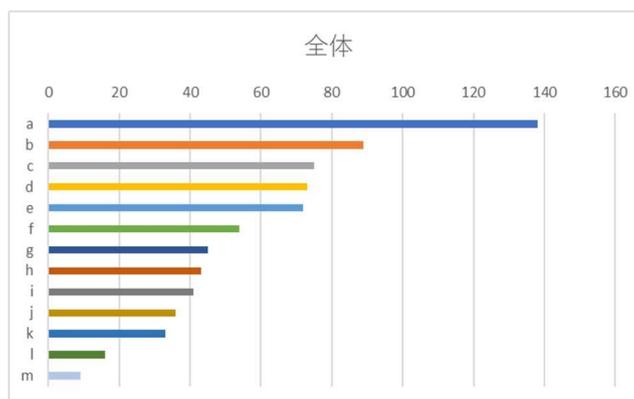
進学を前向きに検討するには？

【所属別】

		数理物質	材料生産	電気情報	生命食料	環境科学	全体
a	学費・生活費に対する経済的支援が必要である	16	38	46	13	25	138
b	博士課程に対応した就職支援の取り組みが必要である	7	21	31	12	18	89
c	企業との関わり（連携授業、共同研究、インターシップなど）が必要である	9	16	23	10	17	75
d	自分自身の研究について、その内容及び時間に裁量があること	8	15	22	10	18	73
e	身近にロールモデルや相談役がいることが必要である	9	12	24	11	16	72
f	社会との関わり（学会・学術界以外の一般社会に向けた情報発信など）が必要である	3	8	17	13	13	54
g	指導者・研究者としての教員の質の高さが必要である	5	11	14	4	11	45
h	国際的な学術交流（海外での研究インターシップ、海外の大学への留学、国際学会、海外機関と	2	12	13	5	11	43
i	教育・研究指導を受ける機会が必要である	5	6	21	3	6	41
j	目的に応じて計画的に組まれた講義や演習が必要である	6	2	17	5	6	36
k	分野・専攻を超えた学問交流・融合が必要である	1	4	11	7	10	33
l	大学発ベンチャー企業での活動が必要である	1	3	4	5	3	16
m	その他	2	5	1	0	1	9

【出身学部別】

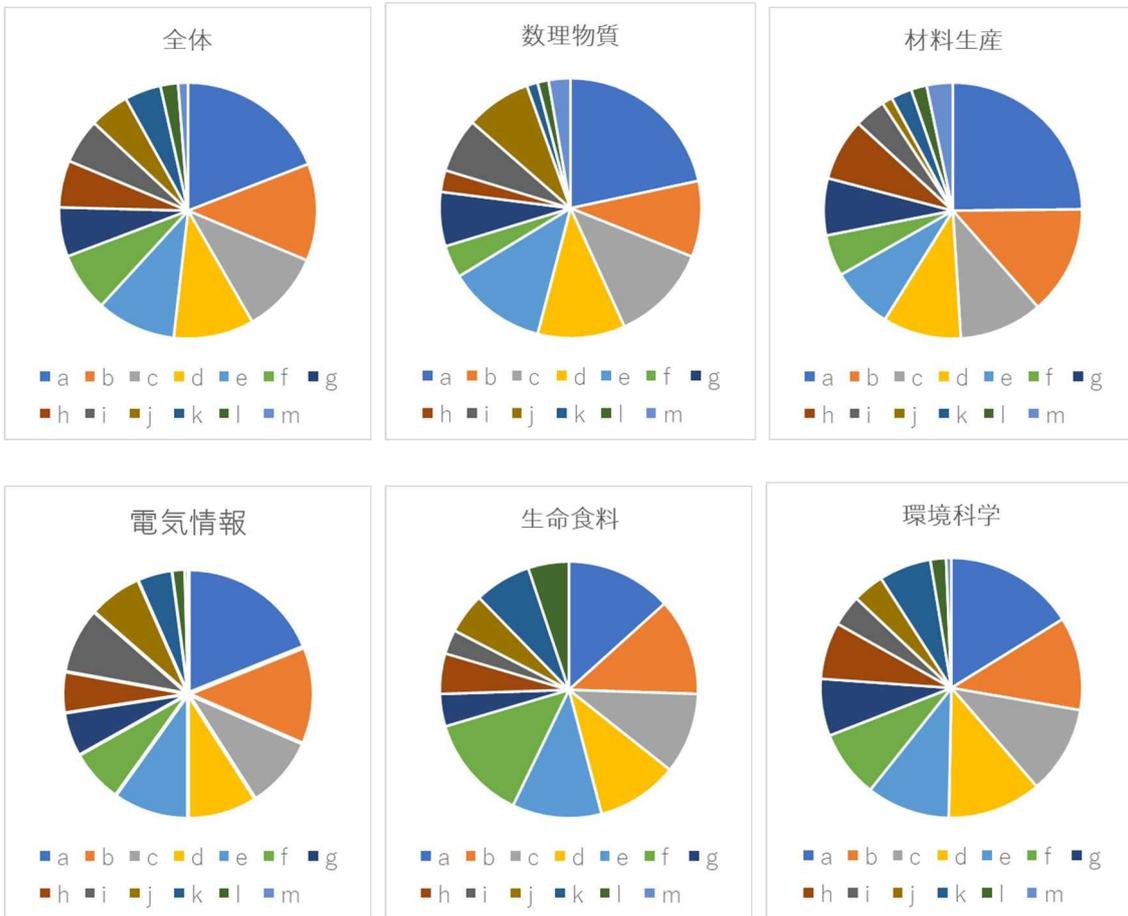
		理学部	工学部	農学部	全体
a	学費・生活費に対する経済的支援が必要である	28	93	17	138
b	博士課程に対応した就職支援の取り組みが必要である	21	56	12	89
c	企業との関わり（連携授業、共同研究、インターシップなど）が必要である	18	48	9	75
d	自分自身の研究について、その内容及び時間に裁量があること	14	49	10	73
e	身近にロールモデルや相談役がいることが必要である	20	43	9	72
f	社会との関わり（学会・学術界以外の一般社会に向けた情報発信など）が必要である	14	30	10	54
g	指導者・研究者としての教員の質の高さが必要である	10	31	4	45
h	国際的な学術交流（海外での研究インターシップ、海外の大学への留学、国際学会、海外機関と	8	29	6	43
i	教育・研究指導を受ける機会が必要である	8	30	3	41
j	目的に応じて計画的に組まれた講義や演習が必要である	11	21	4	36
k	分野・専攻を超えた学問交流・融合が必要である	7	19	7	33
l	大学発ベンチャー企業での活動が必要である	5	7	4	16
m	その他	2	7	0	9



- 専攻・出身学部で顕著な差はない。
- 「経済的支援」がトップ。「就職支援」, 「企業との関わり」, 「研究に対する裁量」, 「ロールモデル」と続く。

【対応：教員アンケート P.20,21】

【所属別】



【出身学部別】



タイトル 大学院自然科学研究科進学意向アンケート（修士課程1年次生対象）

はじめに

このアンケートは、自然科学研究科が、令和3年度修士課程1年次対象に行う大学院自然科学研究科「進路にかかわる意向調査」となります。

アンケートの実施目的は、皆さん（本学学生）が、大学生活において、充実した進路・キャリア形成の機会をつくるために調査をさせていただくものとなります。

また、そのために必要な情報として、本研究科が保有をして調査・分析に活用します。

見出し

以上をふまえ、アンケートに回答される場合は、

新潟大学プライバシーポリシー（<https://www.niigata-u.ac.jp/privacy/>）に同意の上、ご回答ください。

回答が成績評価等に影響することはありませんので、すべての設問に素直にお答えください。

設問は7問で所要時間の目安は5分程度です。

なお、アンケートの締切日は、4月26日（月）となります。どうぞご協力願います。

添付ファイル

結果確認時

参照ファイル

1:基本情報：学籍番号を記入してください。（記入例）F21E100X

（参加者の把握、ガイダンス中に回答できなかった質問への後日配信のため伺います。）【記述式 8文字以内】

(必須)

入力文字数：0文字

2:博士後期課程進学の検討：現時点で予定をしている修士課程修了後の進路について教えてください。【4者択1】

(必須) ※最低1個の選択肢を選択してください。

1. 就職をしたい。
2. 新潟大学大学院の博士後期課程へ進学をしたい。
3. 他大学大学院の博士後期課程へ進学をしたい。
4. 未定である。

3:博士課程進学の検討：設問2の修士課程終了後の進路について、意思決定の度合いを教えてください。【5者択1】

(必須) ※最低1個の選択肢を選択してください。

1. とても迷っている。
2. 迷っている。
3. あまり迷っていない。
4. まったく迷っていない。
5. まだ、考えたことがない。

4:博士課程進学の検討：修士課程終了後の進路について、迷っている理由を教えてください。【6者択6】 (必須) ※

最低1個の選択肢を選択してください。

1. 博士課程終了後、就職できるかどうか不安だから。
2. 博士進学についての情報が少なく、進学後の生活がイメージできないから。
3. 進学することでさらにお金がかかるから。
4. 博士課程に求められているレベルを備えているか、向いているのか不安だから。
5. 博士進学しても就職で有利になるイメージがないから。
6. その他

5:博士課程進学への検討：修士課程終了後の進路について、迷っている理由を教えてください。【記述式 400文字以内】

入力文字数：0文字

6:博士課程進学への検討：設問2の修士課程終了後の進路について、2.新潟大学大学院の博士課程へ進学したい。を選択した方へお伺いします。博士課程への進学を検討することに影響のある観点を選択してください。（推奨3点選択）【11者択3】※最低1個の選択肢を選択してください。

1. 学部での研究テーマが魅力的で、博士課程でもその研究を継続したいから。
2. 博士課程でも、共同研究をより経験したいから。
3. 学部での研究活動が充実していたから。
4. 接した教員が魅力的だったから。
5. 接した先輩が魅力的だったから。
6. 博士課程でも研究を続けることで、より成長できると思うから。
7. 就職活動に有利だと思うから。
8. 将来は、アカデミアでの活躍を希望しているから。
9. 周囲がそうするので。
10. 正直、深く考えていない。
11. その他

7:博士課程進学改善への取り組み：新潟大学大学院自然科学研究科博士課程が今よりさらに魅力的になり、進学を前向きに検討するためには、どのような活動や研究の舞台、仕組みが充実するべきだと思いますか。【13者択13】(必須) ※最低1個の選択肢を選択してください。

1. 自分自身の研究について、その内容及び時間に裁量があること。
2. 分野・専攻を超えた学問交流・融合が必要である。
3. 国際的な学術交流（海外での研究インターンシップ、海外の大学への留学、国際学会、海外機関との共同研究など）が必要である。
4. 目的に応じて計画的に組まれた講義や演習が必要である。
5. 指導者・研究者としての教員の質の高さが必要である。
6. 教育・研究指導を受ける機会が必要である。
7. 学費・生活費に対する経済的支援が必要である。
8. 企業との関わり（連携授業、共同研究、インターンシップなど）が必要である。
9. 大学発ベンチャー企業での活動が必要である。
10. 社会との関わり（学会・学術界以外の一般社会に向けた情報発信など）が必要である。
11. 博士課程に対応した就職支援の取り組みが必要である。
12. 身近にロールモデルや相談役がいることが必要である。
13. その他